

Joe の豪ドル道場 (267)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髓に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに
 対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)

(豪ドル円日足)

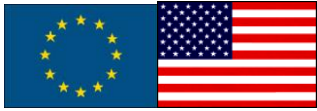
(米ドル円日足)

(ユーロ米ドル日)



<長期予想ビジョン>

通貨ペア	2010年12月末予想推移 (レート/変更日/実勢)
	0.8700 (予想レンジ 0.75-0.95) (31Mar 2010/0.9150)
	87.00 (予想レンジ 73.00-93.00) (31Mar2010/85.50)
	100.00 (予想レンジ 85.00-102.00) (31Mar2010/93.50)



1.3000 (予想レンジ 1.27-1.45) (31Mar2010/1.3400)

2009年6月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	6月末予想値 (2008年11月時点のレート)	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.8000 (0.7500)	0.8054
AUDYEN	80.00 (65.50)	77.58
USDYEN	100.00 (99.00)	96.31
EURUSD	1.3500 (1.2700)	1.4035

2009年12月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	12月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.9000	0.8980
AUDYEN	81.00	83.50
USDYEN	90.00	93.00
EURUSD	1.4500	1.4320

2010年6月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	6月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.8700	0.8404
AUDYEN	82.65	74.26
USDYEN	95.00	88.37
EURUSD	1.2500	1.2167

<キーワード>

EU ストレステスト、米国景気減速、中国景気減速、人民元柔軟化政策、米国出口戦略？ 豪州総選挙 (8/21)、新鉱物資源利用税 (MRRT)、欧州信用懸念 (PIGS) → ギリシャ救済 (EU、IMF) スペイン、ポルトガル、イタリア、アイルランド、ハンガリー、ブルガリア、英国？ 中国為替操作国認定されず (7/9)、各国出口戦略、RBA 5月6回目の利上げ (5/4) - 10月、11月、12月、3月、4月、5月 25bp 利上げ、米国公定歩合引き上げ (0.5% → 0.75%、2/18)、中国金融引き締め、中国不動産投資規制、中国の銀行融資規制、金価格史上高値更新 1261.45 (6/21)、米商業不動産問題、ドル円 85 円割れ (11/27) - 14年ぶりの円高水準 (11/27)、オバマ大統領に支持率 50% 割れ (11/22)、ドルキャリートレード、中国の豪州資源投資、日米ゼロ金利はいつまで続く？ ドル円 100 円超えから反落し 100 円に戻らず (2009年4

月以降)、RBA 豪ドル買い介入 (10月、11月 2008年)、RBA78 セント台で利食いの売りの噂(2009年5月)、RBA の市場でのネット豪ドル売りは2010年4月 350mio、3月 892mio、2月 424mio、1月 295mio、2009年 12月 946mio、11月 313mio、10月 307mio、9月 830mio、8月 576mio、7月 705mio、6月 1.94bio、5月 1.55bio 外為市場で豪ドルネット売り (一種の売り介入との捉え方も)

<注目イベント>

26(月)日 通関ベース貿易収支、豪 2Q 生産者物価指数、米 新築住宅販売件数、27(火) ユーロ圏 マネーサプライ M3、米 ケース・シラー住宅価格指数、リッチモンド連銀製造業指数、消費者信頼感指数、28(水) 豪 2Q 消費者物価指数、南ア消費者物価指数、米 耐久財受注、独消費者物価指数、29(木)日 大型小売店販売額、小売業販売額、RBNZ オフィシャル・キャッシュレート、NZ 貿易収支、独失業率、ユーロ圏消費者信頼感、米 新規失業保険申請件数、米地区連銀経済報告(ページブック)、30(金)日 失業率、有効求人倍率、全国消費者物価指数、鉱工業生産、外国為替平衡操作の実施状況、NZ 住宅建設許可、ユーロ圏 失業率、消費者物価指数、加 GDP、米 2QGDP・速報値、個人消費、ミシガン大消費者信頼感指数・確報値、シカゴ購買部協会景気指数、2(月) ユーロ圏 製造業 PMI 確報、米 ISM 製造業景況指数、建設支出、3(火) 豪住宅建設許可、豪小売売上高、豪中銀政策金利(4.5%据え置き予想)、ユーロ PPI、米個人所得、個人支出、PCE コアデフレーター、製造業受注、中古住宅販売保留 4(水) 豪貿易収支、第2四半期住宅価格指数、ユーロ圏サービス業 PMI、ユーロ圏小売売上高、米 ADP 民間雇用者数、米 ISM 非製造業景況指数 5(木) NZ・第2四半期失業率、BOE 政策金利発表 0.50%に据え置き予想、ECB 政策金利発表 1.00%に据え置き予想、米新規失業保険申請件数 6(金) 豪中銀四半期金融政策報告、加 失業率、米 雇用統計(非農業部門雇用者数、失業率)

<当地の気になる情報>

豪州連邦統計局が本日発表した第2・四半期の消費者物価指数(CPI)は、市場予想を大幅に下回る伸び率となった。コアインフレ率は過去3年余りで最も低い水準となり、豪州準備銀行(RBA)による来週の利上げの必要性はほぼなくなった。発表を受けて豪ドルは下落。銀行間先物は、RBAが来週3日の理事会で政策金利を引き上げる可能性をゼロとする水準に上昇。年内の利上げについても22%の確率を織り込む水準に低下した。これまではクリスマス前の利上げは80%の確率で織り込まれていた。RBAの注視するアンダーライングインフレーションが前年比2.7%上昇となり(前回は3.05%)RBAがターゲットとする

2—3%の範囲内に再び収まり、向こう数カ月間の利上げリスクが排除され、クリスマスに向けて小売売上高の伸びが加速すれば12月に利上げの可能性もあるが、足元の利上げの可能性が後退した。

<豪ドル相場解剖>

- ・ 豪ドルトレンド 6 カ月間 レベルをシフトダウン後、保合 (豪ドル 90 セント中心→87 セント中心±400 ポイント、豪ドル円 85 円中心→80 円中心±500 ポイント)
- ・ 足元のセンチメント 利食い、頭打ち
- ・ 足元の予想 戻り売りと、下値買いの交錯

(大局—相場力学) 2008年7月から10月にかけて大暴落(史上高値98セント台→60セント台、104円台→55円台)した豪ドルは、2008年末～2009年年始にかけて下部の“鍋底”を形成して上昇エネルギーを蓄えた。2009年3月より上昇モーメント徐々に積み上がり年間を通して上昇トレンドを形成(94セント台、85円台まで)し2010年3月まで上昇トレンド継続した。4月に戻り高値93セント台、88円台の高値を付けた後、上方エネルギー放出→再蓄積のサイクルを繰り返してきたが、5月に下方モーメント爆発して80セント台、71円台まで大幅下落。その後は概ね81セント台～90セント台、73円台～80円台の比較的大きなレンジ内での“波動相場”を形成。現在波動の上値圏。

(2002年～今日までの動き)

2000～2001年の国内景気後退で軟調推移していた豪ドルは、世界経済の拡大基調を背景とした国際商品価格の大幅上昇や、国内景気回復に伴うRBAの金融引き締めによる金利格差が追い風となり、2002年から長きにわたり上昇トレンドを形成した。アセットバブルの急膨張を背景に2008年7月には史上高値<0.9848、史上高値(7/15)、104.47円(7/21)ただし豪ドル円の史上高値は107.88(2007/10/31)>を現したが、直後リーマン破綻に象徴される世界金融恐慌が勃発し暴落を演じた。0.6009(2008/10/27)、55.20円(2008/10/24 史上安値)まで下落し、2008年末～2009年年初にかけて下値圏で保合相場を形成。2009年年初より各国協調によるドラスティックな財政・金融両面からの景気刺激策実施を受けて世界的に株価が2009年3月に底離れたのを契機に4月以降上昇に転じ、6-8月は77セント-84セント、70円

-82 円での中段保合を形成。世界の株価や商品相場の堅調と国内景気の予想を上回る回復を背景に RBA は 2009 年 10 月から 3 ヶ月連続で政策金利を 25bp ずつ引き上げて史上最低レベル (3.0%) のオフィシャル キャッシュレートを 12 月には 3.75% とした。豪ドルも 10 月以降再度上昇トレンドを開始し 11 月には 2009 年年間高値 < 0.9406 (2009/11/16)、豪ドル円は 85.32 (2009/10/23) > を付けた。2010 年年初は新年の世界経済への期待感、株価堅調、商品相場の上昇などを背景に 93 セント台、86 円台まで上伸してスタートしたが、その後中国の金融引き締め (預金準備率引き上げ)、ギリシャ初め南欧諸国の信用リスク、オバマ大統領の新金融規制案でリスク許容度が低下して商品相場、株価が調整局面に入り、更に RBA 金利据え置き決定 (2/2) で一時 86 セント割れ、76 円近辺に大幅下落 (2/4)。その後は豪州の金利格差 (3 月利上げ)、景気格差、商品相場の堅調が豪ドルをサポートする一方、ギリシャ問題など南欧の信用リスク問題や中国の金融引き締めなどのリスク要因が売り材料となり一進一退を繰り返した。

4 月に入り 5 回目の利上げも後押しして今年の高値 0.9389、88.07 円まで上昇したが、根強いギリシャ問題、人民元切り上げ観測、ゴールドマンサックス訴追問題などでリスク回避の動きも強く、5 月の 6 回目の利上げを挟んで 0.91~0.93 台、85 円~87 円台での UP & DOWN の揉み合いを繰り返した。しかし 5 月半ばにかけて欧州ソブリンリスクの世界蔓延懸念から市場パニックとなる中、リスクアセット全般が大幅下落し、豪ドルも 80 セント台、71 円台まで暴落したが、5 月末にかけてさすがに徐々に落ち着きを取り戻し 85 セント台、78 円台まで値を回復したが、リスク回避の動きに上伸を阻まれる。6 月金利据え置き、Q1GDP の結果は予想の範囲内、高値 0.8523、79.03 円まで上がって再び欧州問題、弱い米雇用統計を受けたリスク回避の動きで 80 セント台、73 円台に反落。その後徐々に欧州問題こなれ、加えて中国の人民元政策柔軟化発表を受けて 88 セント、80 円まで反発。7 月に入り欧州懸念に加えて、米景況感悪化、中国景況感悪化と重なり 83 セント台、72 円台まで大幅下落。発表された 6 月豪雇用統計の非常に強い数字や資源税に対するギラード新政権の妥協も好感され、加えて欧州危機に対しても欧州銀行へのストレステスト実施であく抜け感強まり 88 セント台、78 円台に再び上昇したのち、中国の弱い指標や米景況後退懸念を嫌気して 86 セント台、74 円台まで反落。ステレステスト通過でリスク回避の巻き戻しで 90 セント台、79 円台まで上伸後、本日の弱い CPI を受けて 89 セント台、78 円台まで小反落。

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.8300-0.9300、豪ドル円 70.00-88.00 円

(小局) ストレステスト通過で上昇→CPI で急落

今週市場は EU ストレステスト通過の安堵感からリスク回避の巻き戻しが先行し、ユーロは 1.30 台まで、ユーロ円は 114 円台まで値を戻した。昨日発表された米国の 7 月消費者信頼感指数は 3 カ月ぶりの低い数字であったが、むしろ市場は米企業決算が概ね強かったことや、インドの利上げ、そしてリッチモンド FED 製造業インデックスの強い数字などポジティブな面を見た。本日発表予定の豪州 CPI が強い数字で 8 月利上げの観測も囁かれる中、豪ドルは 90 セント台、79 円台と (CPI の) 数字の前に予想外に健闘した。しかし実際に発表された第二四半期 CPI (当地の気になる情報参照) は予想を大きく下回る落ち着いた結果となり、発表直後は利上げを見越していた豪ドルロング筋の投げ売りが出て豪ドルは 89 セント台前半、78 円台前半に急落し、今現在 89 セント台半ば、78 円台後半に小戻ししている。

また昨日金は 1 オンス 1190 ドル台から一時 1158 ドル台まで急落した。オプションの決済がらみの売り玉

が原因とも言われるが一日 30 ドル以上大幅下落し、本日豪ドル軟化の伏線となった。
 豪ドルの 90 セントより上は不思議と長続きしない。豪ドルが本格的に上昇トレンドに乗りきっていない
 というのであろうが、やはり本格上昇のためには“円キャリートレードによる円売り豪ドル買い”が不
 可欠。そのためには市場に投資安心感が戻ってくる必要があるであろう。ただ本日の弱い CPI を受けた豪
 ドル下落も高々 100 ポイント程度。地合が悪ければ 200-300 ポイント下落してもおかしくない訳で、徐々
 にではあるが相場も修復されてきているのであろう。

(向う1週間の予想レンジ:豪ドル米ドル 0.8800-0.9100、豪ドル円 77.00-80.50)

<豪ドル売り・買い指数—現状分析（前回の結果—当たり、はずれ—を踏まえて毎回レビ
 ュウ訂正）>

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10（最弱）から+10（最強）まで
独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。たとえば 10 項目であれば、理論上総合
 判断では最強を+100、最弱を-100 となる。各要因は相関（または逆相関）関係があるが（たと
 えば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因（-）となるが逆に市場は売り
 ポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因（+）となりうるなど）。
 また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で“現状分析”が主眼。これを元に将来を予
 測する一助とする。総合判断の数字が「±50」以上など大きくぶれた時がチャンス！！

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ（経済・政治）	<u>*Good</u> -7月 WESTPAC 消費者信頼感指数 +11.1%（前回-5.7%）（7/14）、6月 DEWR 熟練工求人（+0.3%、前回-0.3%）（7/14）、6月雇用統計（失業率 5.1%、予想 5.2%、前回 5.2%、就業者数+45.9 千人、予想+15 千人、前回+22.8 千人）（7/8）、5月貿易収支+1645mio（予想 +500mio 前回+134mio）（7/6）、6月 AIG サービスインデックス（48.8%、前回 47.5%）（7/5）、ANZ 求人広告+2.7%（前回+2.7%）（7/5）、5月民間融資残高（+0.5%、+0.4%予想）、Q1GDP 前期比+0.5%（予想+0.5%前回+1.1%、前年比	-1	+1

+2.7%予想+2.4%前回+2.8%) (6/2)、2月
Q1AVG 週間賃金 (前期比+1.1%、予想+0.9%、
年年比+5.8%、予想+5.4%) (5/20) 賃金インデ
ックス (+0.9%、予想+0.8%2008年 Q4以来最
高値、Y/Y3.0%、予想 2.9%) (5/19)、Q4住宅着
工+15.1% (前期比、8年ぶりの高水準、前回
+11.0%)、2009年 Q4企業信頼感指数 18 (前回
16、1994年 Q4以来の高水準) 企業景況感指数
9 (前回 5、2008年 Q1以来の高い水準) (2/18)、
豪政府連邦予算案は景気見通しを上方修正
2009/10+2.0% (前回+1.5%)、2010/11+3.25%
(前回 2.75%) (5/11)、RBA 四半期金融政策報
告 (5/7) 2010年 GDP 予想 3.25% (前回から
据え置き) 2011年 3.75% (前回 3.50%)、CPI
予想 2010年 2.75% (前回 2.50%) 2011年 2.75%
(前回 2.75)、失業率 5.8%でピークアウト
***Bad**—豪 CPI(前期比 0.6%、前年同月比
3.1%、RBA アンダーライニング CPI 前期比
0.5% (前回 0.8%) 前年比 2.7% (前回 3.05%)
(7/28)、豪 Q2PPI、(前期比+0.3%、予想+0.8%、
前回+1.0%、前年比+1.0%予想+1.5%、前回
-0.1%) (7/26)、Q2NAB 企業信頼感指数 (6、
前回 17) (7/23)、7月インフレ期待指数 3.3% (前
回 3.4%、過去4カ月で最低) (7/15)、6月新車
販売-1.2% (前回-3.9%) (7/15)、6月 AIG 建設
業指数 46.4 (前回 53.2) (7/7)、6月 TD 証券イ
ンフレ指数+0.3% (+0.5%前回)、+3.6% (+3.7%
前回年率)、5月小売売上高 (+0.2、+0.5 予想、
前回+0.6) (7/1)、5月住宅建設許可-6.6% (0.0%
予想、前回-14.8%) (7/1)、HIA5月新築販売
(-6.4%、前回+6.2%) (6/30)、5月新車販売
-3.2% (前回+8.4%) (6/21)、4月 WESTPAC
Leading Index0.0% (前回 1.0%)、5月 NAB
企業信頼感指数+5 (前回+13)、企業景況感指数
+6 (前回+8) (6/8)、Q1 経常収支 (-165億ドル、
予想-164億ドル、前期-184億ドル) (5/31)、
Q1CAPEX(民間設備投資) (-0.2%、予想+1.4%、

	前回+5.5%) (5/27)、Q1 建設活動 (+1.9%、予想+4.0%) (5/26)、Q4 経常収支-17.5bio、予想-17.2bio 前回-14.7bio) (3/1)		
市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消などに関わる)	NYK ダウ 12 ドル上昇で 10,537 ドル、VIX インデックス+0.46 で 23.19、センチメントミックス S。	0	+3
短期筋推定市場ポジション (キャリートレード、IMM ポジションなどから判断) 調整の有無	IMM は豪ドル買いポジションの 32,886 枚 (9,406 枚の BUY 増加) (7/20)。市場ポジションは豪ドル、豪ドル円ともにロング若干減る。	-1	-2
商品相場	原油は 77 ドル台に下落、金は 1163 ドルに大幅下落。CRB インデックスは 264 に下落。ヴァーレ (ブラジル) は鉄鉱石の四半期価格を 7 月から 35%上げて最大 145 ドル (トン当たり) へ。7~9 月期の原料炭化価格トン当たり 200 ドル→220 ドル、今年の石炭・鉄鉱石の 80%内外の大幅値上げ予想。	+1	+2
金利	本日の CPI 大幅弱めで 8 月利上げの可能性はなくなった。年内金利据え置き観測も。米金利先高観後退で豪ドルフェイバー。市場予想は 2010 年年末 4.75~5.00%、2011 年年末 6.00%。米豪 10 年利回り格差 2.3%に拡大。	-2	0
需給	外貨投信は不冴え。今年は石炭、鉄鉱石.価格増加 (50-60%以上) を見込んだ需要。鉄鉱石 80% 値上げの話も。外債発行需要。今年は昨年より中国など海外からの直接投資、M&A に絡む豪ドル買い需要が増えそう。マッカーサー-coal の買収観測。NAB1000 億円サムライ債発行の話。	+2	+2
テクニカル (チャート)	一目均衡表の雲 (0.8599-0.8696、78.10-79.98) の豪ドルは雲の上で足踏み豪ドル円は雲の中に入ってきて足踏み。ボリンジャーバンド (0.8540-0.9073、74.43-79.94) の豪ドル、豪ドル円共に上限で跳ね返された感じ。RSI は豪ドル 61%、豪ドル円 58%で小休止。豪ドルは月曜	-2	+1

	日の陽線の後昨日右肩に上ヒゲ出したのが後味悪かったか、今日の CPI 後の急落となった。		
その他（日替わり）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギリシャ問題/ユーロ（EU ストレステスト） ・ 円売り豪ドル買いキャリートレード ・ 米国の出口戦略（景況、企業収益） ・ 中国関連（人民元切り上げ、金融引き締め経済指標 etc） ・ 資源超過利潤税 ・ 豪総選挙 	-1 +2 -3 -2 +1 +1	-1 +2 -3 -2 +1 +1
“現状” 総合判断 （必ずしも今後の予測とはならず）	依然若干下げバイアスに転換	-5	+5

(*Good, Bad は豪ドルにとってという意味)

<結論、今後の戦略> **豪ドルは上がったが、CPI ではヤラレル、.....**

今週になってからのリスク選好の動きはある程度自分のフィーリングに合うものであったので、リスク選好ポジションとして豪ドル円、豪ドル米ドル、ユーロ米ドル、金をロングにした。自分としてはリスク選好の本命としては豪ドル円と金と考えていたが、結果は明暗分かれた。昨日豪ドル円は 79 円台に上昇。79 円 above では段階的に利食いを行った。元々長く持つ予定のないユーロは 1.3000 で利食い。豪ドルも 0.90 台で細かく利食った。本日の CPI が強い数字との見方もあったのでそれを利用しての SELL ON RUMOUR。ただ金は参った。昨日の急落局面で 1180 台、1170 台でナンピンし、結局 1160 で SL の最悪パターン。まあオプションがらみの売りと言う自分の見えないところでやられてはしょうがない、、、ただ金ポジションはあくまでも長期的に取りたいので 1161 で再度ロングに入っている。そして本日。CPI の盛り上がり期待して豪ドル円、豪ドル米ドル少額ロングで数字を迎えたが、結果は逆に出て豪ドル下落。ただ逆の結果が出る場合も想定し、あまり飛ばされたくないのも極力ストップロスを近くにした（最初の SL から変更）。<SL はタイトに PT は大きめにという指標発表シフト！>

豪ドル円 79 円割れ、豪ドル 90 セント割れでストップロスを入れておいたが、これは正解。も
っと崩れるかと思ったが、世の中のセンチメント考えると全体的にはリスク選好色が出てきて
いることを想起して再び 78 円台前半、89 セント台前半でしつこくロングにした。

・前回のポジション

AUDYEN long at 76.00 PT 79.00(DONE) 80.00 SL 76.30

AUDUSD long at 0.8965 PT 0.9030(DONE) SL 0.8850

EURUSD long at 1.2885 PT 1.3000 (DONE)SL 1.2800

金 long at 1193 PT 1240 SL 1160(DONE)

・現在のポジション

AUDYEN long at 78.35 PT 79.50,80.00 SL 76.50

AUDUSD long at 0.8940 PT 0.9050 0.9100 SL 0.8850

金 long at 1161 PT 1240 SL 1140

本日の予想レンジ： 豪ドル米ドル 0.8880-0.9050、豪ドル円 77.80-79.50

<懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その二百六十五) 勝とうとして勝てるものではないが、勝とうとしなければ勝てない (心
理面)

どうも禅問答のようで恐縮であるが、、、我々の行っているものは“無から有を作り出す”
わけであり、所詮“得体の知れないものを相手にしている”という不確実性が常に付きま
とう。つまり1足す1がマイナス10にもプラス10にもなる世界だ。たとえば肉体労働や
営業活動などは努力=実績で気合いを入れて頑張れば、やる気なしよりは実績があがるで
あろう。しかしトレーディングに関して言えば、気合いを入れて、勝ちを切望しても結果
が伴うという保証は全くないと言ってよい。むしろ勝負にこだわり、欲に支配されれば相
場の本筋が逆にかすんで見えなくなるということも起こるのであろう。一方、相場の分析は
ちゃん行ったし、後は運任せで完全に無欲の境地に到達して相場を達観できれば、勝て
るか？私はそれも難しいように思う。相場は所詮欲望のルツボでドロドロしたものだ。勝
つという強い意志なしでは自分の相場観など簡単に吹っ飛んでしまうであろう。勝とう勝
とうとしても勝てない、しかし『心の奥底で勝つことへの強い意志を抱きつつ、冷静に相
場に対処する』こんな姿勢が望ましいように思う。

<気になる出来事、発言>

出来事 (少々長 いが時々	・ 豪州 Q2CPI 前期比 0.6%、前年比 1.0%、アンダーライニングインフレーション前期比 0.5%、前年比 2.7% (7/28) ・ EU ストレステスト 91 行中 7 行不合格 (7/23)
---------------------	--

レビュ ー！！)	<ul style="list-style-type: none"> ・ カナダ中銀政策金利引き上げ 0.50%→0.75% (7/20) ・ ギラード首相 8 月 21 日総選挙を発表 (7/18) ・ 中国の第二四半期 GDP +10.3%(前回+11.9%、予想+10.5%) (7/15) ・ Moody's ポルトガル格下げ Aaa2→A1 (7/13) ・ 民主党参院選の結果過半数割れ (7/12) ・ ワールドカップサッカー—スペインがオランダ破り優勝 (7/11) ・ 米財務省中国を為替操作国に認定せず (7/8) ・ 6 月の豪雇用統計 (就業者数+45.9k、予想+15.0k、前回+22.8k、失業率 5.1%、予想 5.2%、前回 5.2%) (7/8) ・ RBA 金利据え置き 4.50% (7/6) ・ 6 月米雇用統計、非農業部門就業者数-125 千人 (予想-130 千人、前回+433 千人、失業率 9.5%、予想 9.8%、前回 9.7%) (7/2) ・ 資源超過利潤税 30%で政府/鉱山会社合意 (7/2) ・ カナダ G8、G20 (6/26-/27) ・ 米 FOMC で出口戦略出ず (6/23) ・ 中国人民銀行人民元の柔軟化方針を発表 (6/19) ・ 欧州連合、金融機関のストレステスト実施で合意 (6/17) ・ EU 首脳会議 (6/17) ・ ムーディーズ、ギリシャ格付けを A3 から BA1 に格下げ。見通しは良好 (6/14) ・ FIFA ワールドカップ開催 (6/11) ・ BOE 政策金利据え置き (0.5%、予想 0.5%) ECB 政策金利据え置き (1.0%、予想 1.0%) (6/10) ・ 5 月の豪雇用統計 (就業者数+26.9k、予想+20.0k、前回+25.3k、失業率 5.2%、予想 5.4%、前回 5.4%) (6/10) ・ NZ 準備銀行利上げ (2.50%→2.75%) (6/10) ・ 米国 5 月雇用統計 (非農業部門就業者数+43.1 千人—内国勢調査臨時雇用 +411 千人 (予想+500 千人、前回 290 千人、民間は+41 千人、失業率 9.7% 予想 9.8%、前回 9.8%) (6/4) . ・ 豪州 Q1GDP 前期比+0.5% (予想+0.5%前期+1.1%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前期+2.8%) (6/2) ・ 鳩山首相辞任 (6/2) ・ RBA 金利据え置き 4.50% (6/1) ・ 社民党連立政権を離脱 (5/30) ・ フィッチスペインを AA+に格下げ (5/28) ・ 米中戦略経済対話 (5/24-25) ・ 独政府、株、国債、CDS の空売り規制を独主要 10 行に実施 (5/18) ・ EU ギリシャに一回目の融資 145 億ユーロ実施 (5/18)
-------------	--

- ・ 4月の豪雇用統計（就業者数+33.7k、予想+22.5k、前回+19.6k、失業率5.4%、予想5.3%、前回5.4%）（5/13）
- ・ ギリシャ政府正式に200億ユーロの支援実施を要請（5/11）
- ・ 豪州連邦予算案（2010/2011年度）発表（5/11）
- ・ 英国保守・自民連立政権（キャメロン首相）成立（5/11）
- ・ EU財務相会議でEU安定化プログラムに合意（5/9）
- ・ EU総額750bio(内IMF250bio 拠出)のユーロ支援で合意（5/9）
- ・ 欧州各国リーダー/IMFは公式にギリシャ救済策（80bio/30bio）を承認（5/8）
- ・ 米国4月雇用統計（NFPR +290k、予想190k、前回230k、失業率9.9% 予想9.7%、前回9.7%）（5/7）
- ・ ソブリンリスク問題拡大を嫌気しNYKダウ一時1000ポイント（1万ドル割れ）下落（5/6）
- ・ **RBA利上げ4.25%→4.50%（5/4）（6回目）**
- ・ EU財務相会議でギリシャ救済策決定—総額1,100億ユーロ（EUが800億ユーロで300億は本年分、IMFが300億ユーロ、金利5%）
- ・ 中国今年3度目の預金準備率0.5%引き上げで17.0%に（5/2）
- ・ 米国Q1GDP前年同月比+3.2%（予想+3.4%、前期+5.6%）（4/30）
- ・ FOMC長期間の低金利維持を再確約、FF金利の誘導目標は引き続き0.0%-0.25%(4/28)
- ・ S&Pスペインの格付けをAAに引き下げ（4/28）
- ・ 豪州Q1CPI、RBAインフレ率3.05%（予想2.95%、前回3.4%）（4/27）
- ・ S&Pポルトガルの格付けをA+からA-に引き下げ（4/27）
- ・ S&Pギリシャの格付けをBB+（ジャンク債等級）に引き下げ（4/27）
- ・ ギリシャ政府EUとIMFに支援要請（4/23）
- ・ ムーディーズ、ギリシャを格下げA2→A3(4/22)
- ・ IMF豪州のGDP見通しをアップワードリバイズ
2010年3.0%（前回2.5%）、2011年3.5%（前回3.0%）（4/22）
- ・ RBA議事録（4月分）—金利は平均をわずかに下回っている。追加利上げの可能性（4/20）
- ・ 米証券監視委員会(SEC)サブプライム関連CDO取引でゴールドマンサックスを詐欺容疑で提訴（4/16）
- ・ 中国Q4GDP（前年同期比）11.9%（予想11.7%、前期10.7%）
- ・ ワシントン核保障サミット（4/12-13）
- ・ EU16カ国財務相—ギリシャの要請があった場合2国間融資で300億ユーロまで資金供与で合意。期間3年、金利5%程度（4/11）
- ・ 中国の3月貿易収支-\$0.7bio（2004年4月以来初めての赤字）（4/10）
- ・ 豪州3月雇用統計—失業率5.3%（前回5.3%）就業者数+19.6千人（前回

-4.7 千人) full time job +30.1 千人 (4/8)

- **RBA 利上げ 4.00%→4.25% (4/6) (5 回目)**
- 3 月米国雇用統計、失業率 9.7%、NFPR+162 千人 (前回 9.7%、-14 千人) (4/2)
- 日銀短観 (Q3) 大企業製造業 DI-14 (予想-14、前回-24)、先行き-8 (予想-8、前回-18) (4/1)
- 欧州首脳会合でギリシャ支援策合意—二国間融資と IMF の支援を組み合わせ (3/25)
- フィッチ、ポルトガルのソブリン格付けを AA から AA-に引き下げ (3/24)
- Google 中国の検索事業から撤退 (3/22)
- 米医療保険改革法成立 (3/21)
- インド中銀金融引き締め (リバースレポとレポ金利をそれぞれ 25bp 引き上げ (3/19)
- FOMC—長期間にわたって金利を異例の低水準で据え置くことを継続 (3/16)
- 豪州 2 月雇用統計—失業率 5.3% (前回 5.2%) 就業者数+0.4 千人 (前回 +56.5 千人) (3/11)
- ギリシャ議会 4.8bio ユーロの財政削減策を予定通り可決 (3/6)
- 米国 2 月雇用統計失業率 9.7% (予想 9.8%、前回 9.7%)、非農業部門就業者数-36 千人 (予想-68 千人、前回-20 千人) ((3/5)
- 豪州 Q4GDP 前期比+0.9% (予想+0.9%、前回+0.2%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前回+0.5%) (3/3)
- **RBA 利上げ 3.75%→4.00% (3/2) (4 回目)**
- 独・仏銀ギリシャ債購入計画 (2/26)
- フィッチ、ギリシャの 4 大銀行を格下げ BBB+→BBB(2/23)
- 米 FRB 公定歩合を引き上げ (0.5%→0.75%) (2/18)
- 中国人民銀行今年二度目の金融引き締め。預金準備率を 50bp 上げて 16.50%に (2/12)
- EU 首脳会議—ギリシャ救済で合意。具体策は来週に持ち越し (2/11)
- 豪州 1 月雇用統計—失業率 5.3% (予想 5.6%、前回 5.5%)、就業者数+52.7 千人 (予想+15 千人、前回+37.5 千人) (2/11)
- カナダ・イカルイト G7—2010 年も景気刺激策の継続で合意 (2/7)
- RBA 四半期金融報告 (GDP、CPI 予想を若干上方修正) (2/5)
- 12 月豪州小売売上高-0.7% (予想+0.2%、前回+1.4%) (2/4)
- RBA 理事会—金利据え置き 3.75% (2/2)
- 米国予算教書 (2/1)
- 米国 Q4GDP (前年同月比) +5.7% (予想+4.6%、前回+2.2%)
- 米上院バーナンキ FRB 議長の再任を賛成多数で承認 (1/28)

- FOMC 政策金利を 0.00%~0.25%で据え置き (1/27)
- IMF2010 年世界経済見通しを 10 月時点の 3.1%から 3.9%に引き上げ (1/26)
- 中国の 2009 年 GDP8.7% (1/21)
- オバマ大統領金融規制案発表 (1/21)
- 日本航空会社更生法の適用を申請 (1/19)
- 鳩山内閣支持率年初の 56%から 45%に下落 (1/18)
- 豪州 12 月雇用統計 (雇用者数+35.2 千人、予想+10 千人、前回 31.4 千人、失業率 5.5%、予想 5.8%前回 5.7%) (1/14)
- 中国預金準備率引き上げ発表 (1/12)
- 米国 12 月雇用統計、NFPR -85 千人 (前回+4 千人)、失業率 10.0% (前回 10.0%) (2010/1/8)
- 菅新財務相 (2010/1/7) --もう少し円安に進んだ方がよい発言。
- 藤井財務相辞任 (健康上の理由) (2010/1/6)
- 豪州 Q3GDP+0.2% (前期比、予想+0.6%、前回+0.6%) +0.5% (前年比、予想+0.7%、前回+0.6) (12/16)
- **RBA 理事会で 3 カ月連続 25bp 利上げ 3.50%→3.75% (2009/12/1)**
- ドル円 14 年 (95 年 7 月以来) ぶりの安値 84.80 に下落 (11/27)
- ドバイショックドバイ・ワールドの債務返済延期要請 (11/26)
- 米国 Q3GDP 改定値 (前期比年率) 2.8% (速報値 3.5%) (11/24)
- 豪州 10 月雇用統計 (失業率 5.8%、前回 5.7%、就業者数+24.5 千人、前回+39.8 千人) (11/12)
- RBA 四半期金融政策報告で 2009 年 GDP 見通しを従来の+0.5%から +1.75%に引き上げ。2010 年 GDP 予想を 3.25% (11/6)
- **RBA 理事会利上げ 3.25%→3.50% (11/3)**
- **中国第三四半期 GDP +8.9%(予想+9.0%、前期+7.9%) (10/22)**
- **RBA 理事会—利上げ 3.00%→3.25% (10/6)**
- 鳩山内閣発足 (2009/9/16)
- 豪州 Q2GDP 前期比、前年同期比ともに+0.6% (予想前期比+0.2%、前回 +0.4%) (9/2)
- 中国第 2 四半期 GDP 前年比 7.9% (7/16)
- **豪州第 1 四半期 GDP 前期比、前年比ともに+0.4%でリセッション入り回避 (6/3)**
- GM 破産法適用申請。負債総額 1728 億ドルで米歴代 3 位 (2009/6/1)
- 日本の第 1 四半期 GDP-15.2% (前期比年率、戦後最悪) (5/20)
- 豪州連邦予算案(2009 年 7 月~2010 年 6 月)発表。\$57.6bio 赤字予想 (5/12)
- ECB25bp 利下げして 1.00%、ユーロ建てカバーボンド買い入れ (5/7)
- クライスラー破産法申請 (4/30)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ RBA 利下げ 3.25%→3.00% (4/7) ・ ロンドン G20 (2009/4/2) ・ ダウ一時 6467 ドルの新安値に下落。(3/6) 終値安値は 3/9 の 6547 ドル ・ 豪州 Q4GDP -0.5% (前期比) (3/4) ・ 米景気対策法 (7870 億ドル) 成立 (2/17) ・ 日本の第 4 四半期 GDP 年率-12.7%(2/16) ・ 豪上院 420 億ドル景気対策法案を可決 (2/13) ・ RBA 利下げ 4.25%→3.25% (2009/2/3) ・ オバマ大統領就任式 (2009/1/20) ・ 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表 (2008/12/19) ・ 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%~0.25%に引き下げ (2008/12/16) ・ RBA 利下げ 5.25%→4.25% (2008/12/2) ・ 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入 (5 回目) 0.6100 近辺。10 月 24 日、27 日、28 日、11 月 13 日に続く) ・ 米金融安定化法 (7000 億ドルの TARP が柱) 成立 (2008/10/3/08) ・ リーマン・ブラザーズ自力再建を断念し連邦破産法 11 条に基づく更生手続き適用を申請 (2008/9/15)
<p>発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀崎日銀審議委員—ユーロ安円高による輸出競争力への影響や金融市場の不安定化による企業の資金調達面への影響も景気下振れリスクとして認識する必要性 (7/28) ・ スワン財務相—豪州は金融危機からの回復において他国より強い立場にある。資源税の実現の有無が死活問題 (7/28) ・ デュゲイ・カナダ中銀副総裁—中銀の今後の金融政策をめぐる動きは依然として不透明だが、やがて追加利上げを行うことは依然として不可避 (7/27) ・ 米ゴールドスタイン次官 (国内金融担当) —米国の損なわれた住宅金融システムを立て直すため 8/17 に会合予定 (7/27) ・ トリシェ ECB 総裁—ストレステストは透明性の行使において非常に重要であった (7/26) ・ オルドネス・スペイン中銀総裁—ストレステストの結果は満足のいくもの。長期的に市場は結果を好感するであろう (7/26) ・ 中国人民銀行副総裁—一段と柔軟な人民元が金融政策に役立つ。穏やかな元の変動は貿易不均衡を是正できる (7/26) ・ ギリシャ財務相—EU と IMF による支援第二弾 (90 億ユーロ) を受ける。財務健全化計画で示された条件を満たした (7/26) ・ 野田財務相—EU ストレステストの結果が投資家の安心感につながることを期待 (7/26)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">• 独経済相—2010年のGDPを1.4%から2.0%に上方修正（7/25）• ガイトナー財務長官—欧州ストレステストの結果を歓迎。EUは透明性改善のために甚大な努力を行った（7/24）• スペイン財務相—EUストレステスト後に資本を増強させる緊急の必要性はない（7/24）• 豪資源相—資源税についてすべての鉱山会社の懸念事項を考慮しバランスの取れたものにする（7/23）• 独連銀—独銀は成長率低下においても支払い能力を維持。欧州ストレステストは米国より厳しい。独銀は力強さと弾力性を備えている（7/23）• カーニー・カナダ中銀総裁—将来の金利変更は慎重に判断、カナダのGDPは景気後退以前のピーク時に接近、二番底の可能性低い（7/22）• バーナンキFRB議長（議会証言）—失業が現時点では最重要課題。短期的には適当な財政刺激を維持すべき（7/22） |
|---|